

六甲カトリック教会 教会報

2020
10
No.586



神は全能ではないのか？ 「神義論」を考える

今、私たちの住む社会は、新型コロナウイルスに苦しみ、異常気象とも言える暴風雨や大水害などに遭遇し、また理不尽な通り魔殺人事件なども頻発しています。

神は全能でかつ完全に「善」であらせられるのに、なぜ世の中の悪をなくしては下さらぬのだろうか。なぜ、罪のない人間がわけもなく殺されたり、災害に打ちのめされなくてはならないのか、人々は素朴に思いました。世の中、神も仏もあるものか、と。

その「解」を見出そうと、神学者アウグスティヌス(354～430)は以下のような結論を導き出しました。曰く「神はあくまで全能で正しい、この世に悪が存在するのは人間の原罪によるもので、神は悪や苦しみに対して責任を持つことはない」これが「神義論」、すなわち、神は義(善)であることは不動である。悪の概念を神は一切持たない。したがって悪に責任を持つのは、禁断の林檎を食べたアダムとイブに連なる人間である、と。

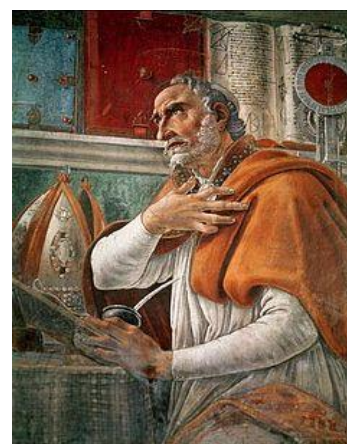
この論には反論があります。神が善の力を全能で発揮できるなら、ナチスのホロコーストも阻止できたのではないか。巨大地震や火山爆発、暴風雨、これら人の力ではどうにもならない災害は神のわざに違いない。なぜなら天地を創造したのは神であるから。

やはり神は善も悪も、恵みも災いも合わせ発揮する存在ではないのか、という論理です。「抗議の神義論」として今世紀まで論議が続いています。他宗教の神の定義、あるいは古代のキリスト教でも教派によっては、神は善と悪を両者備えた存在である、と主張するものもあります。

ヨブは徹底的に神に痛めつけられます。祈っても悔い改めても執拗に神はヨブに試練を与え続けます。いま「試練」ということばを使いましたが、神が人間に与えるパニッシュは「試練」という言葉に替えられました。神の仕打ちは「試練」である、人はこれに耐えなければならない。神は救いを与えると同時に罰も与えるのです。神に甘えてはいけません。神様はいつでも優しく人類を救って下さるものではないということを心に銘じ、それでも神を信じるということが信徒にとって無神論者と違う道筋を模索することになるのです。よしんば「悪」であっても神のみ旨を素直に受け入れ、人智をつくすことが信徒としての務めということに落ち着くはずです。マタイの山上の説教の最後に次のようなことばがあります。

義のために迫害される人はさいわいである。身に覚えのないことであらゆる悪口を浴びせられるとき、あなたがたはさいわいである。喜びなさい。天には大きな報いがある。(マタイ5章10～11節)

「神義論」については多くの書物や論文があります。神学に深く傾倒するのは一般信徒として限度もあると思いますが、神の摂理についていま一度思考をめぐらすことも大切なことかと考えます。



アウグスティヌス
ポッティチェリ画

10月の主日ミサ予定表

日	曜日	時間	地区（ブロック）
3日	土	18時	どなたでも
4日	日	7時30分	どなたでも
	日	10時	第2グループ
10日	土	18時	どなたでも
11日	日	7時30分	どなたでも
	日	10時	第1グループ
17日	土	18時	どなたでも
18日	日	7時30分	どなたでも
	日	10時	第2グループ
24日	土	18時	どなたでも
25日	日	7時30分	どなたでも
	日	10時	第1グループ
31日	土	18時	どなたでも

ミサの回数は流動的です。
教会の最新の情報にご注
意下さい。

【第1グループ】

灘北1・北三田
灘北2・阪神
灘南・神戸西

【第2グループ】

灘西・中央
東灘北1
東灘北2・芦屋
東灘南



ビスカルド篤子さんのお話を聴く

はじめてのオンライン講演会 宣教部

今回、教会講演会はオンラインで配信する形をとらせていただきました。もうご覧いただけましたか。まだしばらくは、視聴可能な状態にしております。まだの方はご覧ください。

コロナ禍で、集まりが難しくなり、このオンライン方式（インターネット使った配信）が注目されるようになりました。今回講師をお願いしたデ・ビスカルドさんは、「やったことがなかったので、聞いている方からの反応がわからず、一方的に話しているので少々不安だった」そうです。大変うまく話されていたと思います。一方で、教会に来られるのが難しい方も、ご自宅などそれぞれの場で視聴できたので、お年寄りの方からこのような方式に慣れている若い方まで、視聴しやすいメリットもあったと思います。

コロナウイルス感染があったからこそ生み出されたこのスタイル。マイナスばかりが目立ちますが、プラスの面も見て、前向きに生きたいですね。3密を忘れずに！（宣教部 松平麻也）

コロナ危機で浮き彫りになった排除について考える ～難民の支援を通して見えてきた私たちの社会～

今回の後援会は新型コロナ感染予防のため、インターネットで配信されました。お話は大阪大司教区社会活動センターシナピスで長年難民問題に携わっておられるビスカルド篤子さんです。様々な事情から生きのびる道を日本に求めて来日しても入管に收容される人、仮放免になっても働けず生活に困窮する人、難民認定を求め忍耐強く裁判で戦う人、入管に收容されないかと毎日びくびく生きている人。そんな彼ら彼女らが希望を失わないようにと支え続けるスタッフの心には、一人一人を大切にするキリスト者としての揺るがない生き方が根差しているのでしょうか。同じキリスト者として私たちにできることはなんでしょう？ 入管での面会、裁判の傍聴、経済的な支援など少し勇気を出せばどれかできるのでは・・・。

強制送還を拒否した人、拒否した人を支援する人にも処罰を課す法律ができたら怖いのです。すべてのいのちが大切にされる国であるよう祈り求めたいと思います。

（長瀬三千子）

アルフォンス・デーケンさん（上智大学名誉教授＝写真＝）が9月6日帰天されました。「死への準備教育」「生と死を考える会」など、死生学について多大の貢献をされました。当教会にも講演に来られたことがあります。シスター高木慶子さんから追悼文を寄せていただきました。

デーケン先生を偲ぶ



数年前、涙を流しながら「あのように温かく、お優しいお方がおられるとは、生きていてよかった・・デーケン先生の手の温もりが今も、この手にあるのです・・」と、お子様を亡くされて悲しみに暮れておられました30代のご婦人から、昨日お電話をいただきました。「デーケン先生のご死去を伺い、無念です。あの先生がおられたから今まで私は生きていることが出来たのですから」と。

このご婦人の言葉が、デーケン先生を思い出し、偲ぶのに一番ふさわしいお姿であると思います。デーケン先生は何方に対しても優しく柔和であり、多くの人々のこころを癒し和らげる存在でした。特にユーモアセンスが豊かであり、講演会やセミナーなどでも多くの方々を笑いで満たし、その場を温かい雰囲気包んでおられましたので、いつでもデーケン先生の講演会は満杯でした。

また、日本社会では「死がタブー」だった時代に「死への準備教育」を提唱され「生と死を考える会」を立ち上げられることにより、医学界を始め、教育界に、死を現実のものとして考えることに貢献されました。その業績は偉大なもので、先生が提唱されました理念のお蔭でその時までタブーだった「死」が公の場で語られるようになり、医学界をはじめとして「死」をテーマとした様々な研究会も発足して参りました。

また、最も大事な事柄は、デーケン先生はカトリック教会の司祭としての活動も著しく、毎年多くの方々に、神様との出会いの機会をお与えになり、多数の受洗者を生み出しておられました。デーケン先生により日本の社会の精神性が随分と向上したと考えております。また、この様な素晴らしいデーケン先生を日本に派遣していただきましたイエズス会にも深い感謝申し上げます。

（シスター高木慶子）



今月の聖人 10月

アッシジの聖フランシスコ

10月4日はアッシジの聖フランシスコ（1182～1226）の記念日です。「裸のキリストに裸で従う」と宣言し、イエスの生涯を厳密に踏襲、一切を所有しない清貧の実践を徹底したと言われています。仲間と修道会を創立し、後の「フランシスコ会」となりました。自然を愛し、神の創造物である小鳥やウサギと親しみ、オオカミさえも心が通じた、などというエピソードがあります。彼は1224年に聖痕（イエスと同じ十字架の傷）を受けたとされ、さらに各地を精力的に巡りますが次第に衰弱して1226年の10月3日に天に召され2年後に列聖されました。

「神よ、わたしをあなたの平和の道具にして下さい」という平和の祈りはよく知られています。

少し古い作品ですが、1962年公開のアメリカ映画「剣と十字架」は彼の伝記映画です。DVDにもなっています。



聖痕を受けるフランシスコ
ジオット画（1325年頃）



炊き出し再開

社会活動部

9月12日（土）六甲教会の炊き出しもようやくこの日から活動再開しました。とは言っても、当教会の台所使用はまだ難しいということでしたので、今回は、神戸社会活動センターのご厚意で、中央教会の庭の炊事場をお借りし、ハッシュドビーフを作りました。六甲教会の炊き出しメニューは、今までずっと中華丼でしたが、今回は、コロナ禍の時期なので、簡単で美味しいメニューに切り替えました。出来た鍋と活動センターが炊いて下さったご飯を小野浜グラウンドへ運び、おじさんたちに配食しました。おじさんたちも一人ずつ受け取る前に、手を消毒し、間隔を空けて、青空のもとで美味しくいただいている様

子でした。この日来られた人数は80名、ボランティアさんは、私たち六甲教会から6名、そして、活動センターから3名の計89名でした。炊き出しは、各小教区の協力で成り立っています。六甲教会は毎月第2土曜日10時から作業します。大鍋を運ぶなど力仕事もありますので、男性の方のご協力参加をお待ちしております。

（社会活動部
井川伸子）



大阪大司教区 社会活動委員会代表者のつどい2020

開催が延期されていた大阪教区の社会活動委員のつどいが、9月19日（土）玉造の大阪大司教区本部事務局で行われました。今回は感染拡大防止のため地区の代表者2名ずつの参加となり、私は神戸地区代表としてシナピス神戸事務局長の野村さんと一緒にこのつどいに参加しました。前田万葉大司教さまの挨拶と祈りで始まり、社会福音化部担当司祭 松永敦神父さまの紹介があり、教皇フランシスコの昨年東京ドームでのミサ説教のビデオを観ながら、教皇さまのメッセージを振り返り、副センター長の松浦謙神父様から改めて社会に目を向け弱い立場に追いやられている人々に向向いて行くキリスト者としての共同体についてのお話がありました。そして、「福音」と「正義と平和」は分けて考えられることで

はないということでした。講話のあと、グループに分かれてわかちあいをし、最後に皆で再認識したことは、社会活動とは、「すべてのいのちを守る」こと、社会活動委員自身が委員だからという理由で活動をするのではなく、むしろ共同体の誰もが望めば参加できるようにお手伝いする立場である、ということでした。この日、参加された中で一番遠くから来られたかたは、和歌山県田辺教会の委員のかたで3時間半かけて来られました。このコロナ禍で各地区それぞれ大変な思いをされているようでしたが、お互いに忌憚なく意見交換ができ、大変有意義なつどいとなりました。

（神戸地区社会活動委員代表 井川伸子）

ロゴマーク募集

第41回正義と平和協議会全国集会 大阪大会だより
大会ロゴマークを募集します。

テーマ 『すべてのいのちを守ろう』

募集期間：10月5日（月）～11月15日（日）

《募集要項》

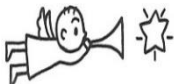
ロゴはテーマに沿ったデザインで、大きさは10cm×10cm、カラー、文字無しです。
メール、または郵送にて大会実行委員会まで送ってください。
応募された方全員、そしてめでたく採用となった方には、ささやかですがプレゼントを差し上げます。子どもから大人までどなたでもご応募ください。お待ちしております！！

送付・連絡先：カトリック大阪大司教区社会活動センターシナピス気付 大会実行委員会
住所：〒540-0004 大阪府中央区玉造2-24-22
TEL：06-6942-1784
大会専用メールアドレス：jptaikai@osaka.catholic.jp



施設管理部 園芸係

夏の花壇のお水まきに多くの皆様からご協力いただき、ありがとうございました。
特別の暑さでしたが、おかげで植物も生き生き美しい花を咲かせ続けております。
10月も、当番表を事務所に置いておきます、改めてご協力お願いいたします。



お知らせ

防災備蓄品の保有と避難経路図の表示について

今年4月よりスタートしました防災委員会の活動の一環として、地震・豪雨・火災等の災害発生時、六甲教会に避難される方のために防災備蓄品を準備いたしました。防災備蓄品として 約30名の避難者を想定し、飲料水、非常食、アルミブランケット、エアマット、簡易トイレを購入し、今後は防災備蓄品の更なる充実を図っていきます。

また、非常時に迅速に避難できるよう各会議室、図書室、イグナチオホールに避難経路図を表示しております。信徒の皆様ご確認をよろしくお願いいたします。

(防災委員会)



みんなの広場 ～神の勝ち・私の負け～

主よ、あなたがわたしを惑わし
わたしは惑わされて、あなたに捕らえられました。
あなたの勝ちです。
わたしは一日中、笑いものにされ、人が皆、わたしを嘲ります。
・・・(略)

主の名を口にすまい もうその名によって語るまい、と思っても
主の言葉は、わたしの心の中、骨の中に閉じ込められて
火のように燃え上がります。
押さえつけておこうとして、私は疲れ果てました。
わたしの負けです。

エレミアの預言(エレミア20・7-9)より

年間第22主日に読まれた第一朗読の一部です。アルフレッド神父様はこれに基づきお説教されました。【福音書には「勝ち・負け」という言葉はない。けれども私たちは日常で勝ち負けを意識する。エレミアは、完全に私はあなたのものと宣言している。私たちも神に向かって勝とうとはせず、負ける準備をしない。失っても良いという心を持たせてください」と祈りなさい。それによって得るもの・神から与えられるものの方がずっと大きいからだ】と、仰ったように私は捉えました。

「負けるが勝ち」という古いことわざが日本にはあります。人間関係において、あえて負けることが結果的に自分の方に利が得られるという意味に使われるようです。余談ですが、先のエレミアの預言は、恋愛感情に似ている気がしませんか？恋愛においても負けるが勝ちって場面が多分にあるような。

神父様はまた仰いました【誰に向かって勝つとか負けるとか言うのか？】と。対等な立場であれば勝ち負けにこだわることもあるでしょうが、普通に考えて神に勝とうと思えば、不遜極まりない気がします。けれども自分の考えや行ないが正しい、とつい思ってしまうのですよね、私もですけど。

それから私は考えました。「得られるもの～恵み～って何だろう？」神のことばを告げたために迫害を受けたエレミアは神にその苦しみを訴えました。「それでエレミアは何を得たのだろう？」勉強不足で不信心な私には、聖人とか殉教者とか、信仰を貫くことが分からない・・・というか聖書には随所に理解に苦しむ箇所があります。それに対して「理解することより信じることだ」と言われ、そんなものかなと思うのです。なのでついには「神の御摂理のままに・・・」とか「人事を尽くして天命を待つ」というようなことに収まってしまうというわけです。何だかモヤりますけれどね。(阿)

図書室だより

9月に入った図書

パンデミック後の選択 — 教皇フランシスコ カトリック中央協議会

今年3月末からひと月の間のウルビ・エト・オルビ(教皇祝別)、ミサ説教、書簡、雑誌への書下ろし原稿、アースデイでの講話、などで語られたパパ様の言葉がまとめられている。COVID-19によるパンデミックからの困難な回復の背後にある、より悪質なウィルス＝無関心なエゴイズムというウィルスへの警告し、正義と愛と連帯によって、貧しい人・弱い立場にある人を中心にした新しい世界を築く手掛かりを提示している。



付録に4月25日『すべての信者に送る手紙』にあるマリアへの2つの祈りがある。

教皇講話集、『十戒・主の祈り』(ペトロ文庫) もまもなく入荷します。

また10月3日にアッシジで署名される新回勅『フラッテリ・トゥッティ(Fratelli tutti)』の邦訳が待たれます。楽しみに待ちましょう。(兄弟の皆さんの意で兄弟愛と社会的友情テーマ)

◆ 季節の移りかわり ◆



先週は大げさな台風予想・特別警報がものの見事にハズレ、日本列島の全域に恵みの雨がもたらされた。その日を境に、秋の訪れが身近に感じられるようになった。

もう何十年前になるのか、私はサント・クララ大学に滞在したことがあった。二、三日の間は好天気を喜び称えていたが、来る日も来る日もお天気続きでかえって身体の調子が狂ってしまい、雨風や曇り日を待ちわびるようになったものだ。日本には有難いことに、四つの季節が画然とめぐり訪れる。汗まみれになって猛暑に耐えていた日々が、今では懐かしいほどだ。朝夕と日中の気温格差が大きくなり、吹き抜ける風に思わず木枯らし厳しさを思い出した。今まで大きな木陰で教会の庭を覆い包んでくれた桜の木は、もう黄色の朽ち葉が日毎に増えて散るようにもなった。これからの4か月余り、落ち葉掻きに励んでくださる方々の忍耐が大いに試される。

日本的な心情や「もののあわれ」といった情操や情念からいえば、時節の移り変わりの中、花鳥風月のたたずまいにじかに感応することなしには、人生の歩みの重さも、生きる喜びも哀歓の情も乏しくなるのではないか。日本人がキリスト者になるとは何を意味するのか。大自然のイノチの営みに超然と立ち構え、外界の変化に一喜一憂することなく恬淡として、我関せずの平静さこそキリスト者の理想なのか。ここで当然のことながら、規範・理想となるのはギリシャやローマの世界ではなく、ひとえにイエスの生き方、イノチあるもの・代わりゆく者への彼の関り方である。このような問題意識

をもって福音書に、イエスの心・イエスの生きざまを尋ねたいものだ。「たとえ話」の背後に、イエスの眼差しや心配りがあらわに読み取れるのでは。フランシスコ教皇は、「すべてのイノチあるもの」に配慮する祈りの月間を呼びかけた。また彼が切望する「エコロジカルな回心」への呼び招きは、虐げられ危うくされている人々への連帯だけではなく、人間以外の全被造物の生息・存続・繁栄をキツカイ、人間によって存亡の危機に瀕しているイノチあるものの現状を鋭く指摘している。

冷暖房を兼ね備えたエアコンが普及した。その代償なのか、秋の訪れ・風の知らせ・雲ゆき・虫の声にすっかり鈍感になってしまった。人工のもの・機械に頼りきりの生活は、自分の眼で確かめ、自分の手で作り、自分が汗を流し、自分の舌を頼りに調理することを怠りがちになる。スーパーの売り場に行くと驚くばかり。調理済み、湯をかけるだけ、温めるだけ、既に作られた何十種類ものドレッシングなど。お蔭で、日本の食卓が随分とみすばらしくなってしまったのではないか。便利ではあるがその実・まがいもの、手間暇いらすの製品・純然たるつくりものが、どこにもここにものさばっている。またまた年寄りのヒガゴトになってしまった。世の中は大きく変わり、生活はますます忙しくなったが、各自の主体的な選びこそもっとも大切になってきた、流され踊らされないために。

「天は神の栄光を語り、大空は御手の業を告げる」

中村健三 合掌

【 2020 年 10月予定表 】

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
					初金曜日ミサ 07:00 10:00 ◎灘北2・阪神	
4	5	6	7	8	9	10
年間第27主日			ロザリオの聖母		◎灘南・神戸西	典礼部会 10:00
11	12	13	14	15	16	17
年間第28主日 小教区評議会12:00					イエスのみ心ミサ 07:00 ◎灘西・中央	
18	19	20	21	22	23	24
年間第29主日 世界宣教の日 (献金)					◎東灘北1	
25	26	27	28	29	30	31
年間第30主日			聖シモン聖ユダ使徒		◎東灘北2・芦屋	

◎は掃除当番地区です。ミサの地区割ではありません。



コロナに影響され、教会報はページを減らしながら発行してきましたが、この10月号でひさしぶりに8ページのものを出すことが出来ました。少しずつ教会が息を吹き返してきたしるしです。次号も質量ともに充実した広報が出来るように、一日も早いコロナ禍の完全な収束を祈ります。

次回11月号の発行は10月31日予定です。 原稿は毎月15日ごろまでに教会受付へ直接ご持参いただくか、FAX やメールでお願いいたします。皆様からの原稿をおまちしております。 (広報部) http://www.rokko-catholic.jp	六 甲 カ ト リ ッ ク 教 会	
	〒657-0061	神戸市灘区赤松町 3-1-21
	電 話	078-851-2846
	F A X	078-851-9023
	Email Address	renraku@rokko-catholic.jp
	編 集	広 報 部
	発行責任者	アルフレド・セゴビア